

4 耳下腺腫瘍における傷が目立たない皮膚切開による手術

耳下腺腫瘍は耳の前から下方にある唾液腺に生じる腫瘍で、約7割は良性腫瘍です。基本的に手術治療が勧められます。

耳下腺腫瘍摘出術における皮膚切開法としては、S字切開という、耳の前から頸部にかけて切開を行う方法が標準的です。しかし、S字切開法では患者さんによっては、(図1)のように傷が目立つ場合があります。当科ではface lift切開という、形成外科で行われる“しわ取り”の手術で行われる皮膚切開法を応用してきました(図2)。この切開法では傷が耳の後と頭髪部に隠れるため、整容的に優れています。Face lift切開の短所としては、頭髪に至る長い皮膚切開が必要であり、手術時間が長くなることです。

当科では、腫瘍が3cm以下で浅い位置に存在する場合、頭髪部の切開を省き、(図3)に示したような傷が目立たないU字の切開を行い、限局した皮膚剥離のみで腫瘍摘出を行っております。

【参考文献】Furuta Y, Tsubuku T, Matsumura M. Parotidectomy by U-shaped skin incision for small benign tumors. J Otol Rhinol. 2015; 4: 2(e-journal).
<http://dx.doi.org/10.4172/2324-8785.1000216>

